（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス　優			
○保護者評価実施期間	2026年　6月　30日	～	2026年　7月　31日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	１４人	（回答者数）	8人
○従業者評価実施期間	2026年　7月　1日	～	2026年　7月　31日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	6人	（回答者数）	6人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年　9月　25日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	毎日のプログラムの中でも、子ども達が意欲的に参加し、自分の力を発揮出来る環境が整っている。	毎日の活動（LST・SST・コグトレ・運動等）において、子ども達が自分のペースで取り組んでいけるよう支援しているため、活動への参加意識が高まり、できることが増えることで自分に自信を持つ姿が見られている。	子ども達自身の「やりたい！」という気持ちを尊重し、見守りながら支援することで、できることの楽しさを体験し、成功体験を積み重ねられるようにしていく。
2	見通しが持てる環境が整い、安心して活動に取り組めている。	活動内容が毎月一定されていることや、事前の説明・声掛けの統一により、子ども達が安心して過ごせる場が確保されているため、情緒が安定し、落ち着いて毎日の生活や活動に取り組むことができている。	活動時に口頭説明ではなく、箇条書きでまとめた掲示物を用いることで、自身で行うべきことを理解し、行動に移せるように支援していく。
3	プログラムを通じて他児とコミュニケーションを図る機会が多く、対人スキルが向上している。	LST・SST・コグトレなどの活動の中で、協力・順番・相談などの場面を意図的に設定しているため、挨拶や簡単なやり取りなどの対人スキルが向上している。	引き続きLST等の活動の中でグループワークを取り入れていくことで自分の気持ちや意見を相手に伝えられるよう支援していきたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の子どもとの交流機会が十分に確保できていない。	子ども食堂の場や児童館での交流は一部実施しているものの、日程調整や活動内容の調整が難しく、継続的な交流機会の確保が十分ではない。	地域の施設との連携方法を見直し、年間を通じて交流できる機会を増やせるよう、事前調整や情報共有を強化していきたい。
2	家族支援プログラム（ペアレントトレーニング等）の実施が限定的である。	保護者への相談対応は行っているものの、家族の対応力向上を目的とした研修や情報提供の機会が十分に設けられていない。	家庭で活用できる支援方法や子どもへの関わり方について、簡易な研修や情報提供の機会を設け、家族支援の充実を図っていきたい。
3	保護者同士・きょうだい児の交流機会が少ない。	行事の際に保護者同士が話せる場はあるものの、保護者会や父母の会など、保護者同士が継続的に交流できる機会が十分に確保されていない。	保護者会の開催や，きょうだい児が参加できる活動を企画し、保護者同士・きょうだい児の交流の場を広げていきたい。